

平成 25 年度

一般 1 期 入学 試験 問題

数 学 (科学技術学部・薬学部)

2月5日 (11:10 ~ 12:10)

注 意 事 項

1. 問題用紙は、試験監督者の指示があるまで開かないこと。
2. 問題用紙と解答用紙(マークシート)は別になっています。
3. 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、監督者の指示に従って、それぞれ正しく記入し、マークしなさい。
 - ① 氏名欄 氏名及びフリガナを記入しなさい。
 - ② 受験番号欄 受験番号(数字及び英字)を記入し、さらにその下のマーク欄にマークしなさい。
 - ③ 試験種別欄 一般1期にマークしなさい。
 - ④ 教科・科目欄 数学にマークしなさい。
4. **I** は必答、**II** **III** **IV** については、これらより2問を選択して解答すること。
5. 解答は、解答用紙の解答欄にマークしなさい。例えば、**10** と表示のある問いに対して③と解答する場合は、次の(例)のように解答番号10の解答欄の③にマークしなさい。

(例)

解 答 番 号	解 答 欄									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
10	①	②	●	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

6. 問題用紙は、試験終了後持ち帰ること。

全員必答 **I** は必ず解答すること。

I 以下の各問いに答えよ。

問1 x は正の数で、 $x^2 - 3x - 2 = 0 \cdots \textcircled{1}$ を満たしている。このとき、 $x^3 + \frac{8}{x^3}$ の値を求めたい。

①の両辺を x で割ると、 $x - \frac{2}{x} = \boxed{1}$ となり、

$x^2 + \frac{4}{x^2} = \boxed{2}$, $x + \frac{2}{x} = \boxed{3}$ となる。

よって、 $x^3 + \frac{8}{x^3} = \boxed{4}$ となる。

問2 2次関数 $y = x^2 + ax + b$ (a, b は定数) $\cdots \textcircled{1}$ のグラフが点 $(-1, 4)$ を通る。

(1) b を、 a を用いて表わすと

$b = \boxed{5}$ であるから、①の頂点の座標を a で表わすと
($\boxed{6}$, $\boxed{7}$)である。

(2) ①のグラフが x 軸と接するときの a の値は

$a = -\boxed{8}$, $\boxed{9}$ であり、各々の a の値に対応する2つの放物線の交点の座標は $\boxed{10}$ である。

問3 鋭角三角形ABCにおいて、 $AB = 4$, $\sin C = \frac{2\sqrt{2}}{3}$ である。

このとき $\triangle ABC$ の外接円の半径は $\boxed{11}$ である。また、 $\cos C = \boxed{12}$ である。

さらに $BC \sin A = AC \sin B$ が成立するとき $\triangle ABC$ は $\boxed{13}$ であるから、 $BC = \boxed{14}$ である。

1 の選択肢

- ① -3 ② -2 ③ -1 ④ 1 ⑤ 2 ⑥ 3

2 の選択肢

- ① 11 ② 12 ③ 13 ④ 14 ⑤ 15 ⑥ 16

3 の選択肢

- ① $\sqrt{17}$ ② $\sqrt{15}$ ③ $\sqrt{13}$ ④ $2\sqrt{13}$ ⑤ $2\sqrt{15}$ ⑥ $2\sqrt{17}$

4 の選択肢

- ① $13\sqrt{17}$ ② $11\sqrt{17}$ ③ $17\sqrt{13}$ ④ $9\sqrt{17}$ ⑤ $15\sqrt{17}$ ⑥ $11\sqrt{13}$

5 の選択肢

- ① a ② $a+1$ ③ $a+2$ ④ $a+3$ ⑤ $a-2$ ⑥ $a-1$

6 の選択肢

- ① $\frac{a}{2}$ ② a ③ $2a$ ④ $-2a$ ⑤ $-a$ ⑥ $-\frac{a}{2}$

7 の選択肢

- ① $-a^2+4a+12$ ② $a^2-4a-12$ ③ $\frac{a^2}{4}+a+3$
④ $\frac{a^2}{4}-a+3$ ⑤ $-\frac{a^2}{4}+a+3$ ⑥ $-\frac{a^2}{4}-a+3$

8 の選択肢

- ① 1 ② 2 ③ 3 ④ 4 ⑤ 5 ⑥ 6

9 の選択肢

- ① 1 ② 2 ③ 3 ④ 4 ⑤ 5 ⑥ 6

10 の選択肢

- ① $(-1, 2)$ ② $(-1, 3)$ ③ $(-1, 4)$
④ $(1, -4)$ ⑤ $(1, -3)$ ⑥ $(1, -2)$

11 の選択肢

- ① $\frac{\sqrt{2}}{4}$ ② $\frac{\sqrt{2}}{3}$ ③ $\frac{2\sqrt{2}}{3}$ ④ $\frac{\sqrt{2}}{2}$ ⑤ $\frac{3\sqrt{2}}{2}$ ⑥ $\sqrt{2}$

12 の選択肢

- ① $\frac{1}{6}$ ② $\frac{1}{5}$ ③ $\frac{1}{4}$ ④ $\frac{1}{3}$ ⑤ $\frac{2}{3}$ ⑥ $\frac{3}{4}$

13 の選択肢

- ① $BC = AC$ の二等辺三角形 ② $AC = AB$ の二等辺三角形
③ $AB = BC$ の二等辺三角形 ④ 正三角形
⑤ $\angle A = 90^\circ$ の直角三角形 ⑥ $\angle B = 90^\circ$ の直角三角形

14 の選択肢

- ① $\sqrt{3}$ ② $2\sqrt{3}$ ③ $3\sqrt{3}$ ④ $3\sqrt{2}$ ⑤ 4 ⑥ $4\sqrt{2}$

選択解答 **Ⅱ** ~ **Ⅳ** の 3 問のうち、2 問のみを
選んで解答すること。

Ⅱ 男子 4 人と女子 3 人の 7 人が無作為に 1 列に並ぶとき、次の各問いに答えよ。

問 1 一列に並ぶ方法は全部で **15** 通りである。

問 2 女子 2 人が両端になる並び方は **16** 通りあるので、その確率は、
17 である。

問 3 女子同士が隣り合わない並び方は **18** 通りある。また、女子同士が隣り
合わず、かつ男子同士も隣り合わない並び方は **19** 通りある。従って、女
子同士が隣り合わず、男子同士が少なくとも 2 人は隣り合う並び方になる確率
は、**20** である。

15 の選択肢

- ① 5000 ② 5010 ③ 5020 ④ 5030 ⑤ 5040 ⑥ 5050

16 の選択肢

- ① 72 ② 144 ③ 216 ④ 720 ⑤ 1440 ⑥ 2160

17 の選択肢

- ① $\frac{1}{7}$ ② $\frac{3}{7}$ ③ $\frac{5}{7}$ ④ $\frac{1}{14}$ ⑤ $\frac{3}{14}$ ⑥ $\frac{5}{14}$

18 の選択肢

- ① 72 ② 144 ③ 216 ④ 720 ⑤ 1440 ⑥ 2160

19 の選択肢

- ① 72 ② 144 ③ 216 ④ 720 ⑤ 1440 ⑥ 2160

20 の選択肢

- ① $\frac{1}{35}$ ② $\frac{3}{35}$ ③ $\frac{6}{35}$ ④ $\frac{9}{35}$ ⑤ $\frac{12}{35}$ ⑥ $\frac{16}{35}$

Ⅲ 3次関数 $f(x) = -x^3 + ax^2 + bx + 6$ のグラフ $y = f(x)$ は $x = 1$ で直線 $y = 12x + 5$ のグラフに接している。以下の各問いに答えよ。

問1 $f(1) = \boxed{21}$, $f'(1) = \boxed{22}$ であるから、定数 a , b の値は $a = \boxed{23}$, $b = \boxed{24}$ である。
また、3次関数 $f(x)$ は $x = \boxed{25}$ で極大値 $\boxed{26}$,
 $x = \boxed{27}$ で極小値 $\boxed{28}$ となる。

問2 3次関数 $y = f(x)$ の極小値を p とする。

直線 $y = p$ のグラフと、3次関数 $y = f(x)$ のグラフで囲まれる図形を A とおく。ただし、 A は境界を含むものとする。

実数 x , y が A の領域を動くとき、 $y - 9x$ のとりうる値の範囲を考えると、 $y - 9x$ の最大値は $\boxed{29}$, 最小値は $\boxed{30}$ である。

21 の選択肢

- ① 14 ② 15 ③ 16 ④ 17 ⑤ 18 ⑥ 19

22 の選択肢

- ① 11 ② 12 ③ 13 ④ 14 ⑤ 15 ⑥ 16

23 の選択肢

- ① 3 ② 4 ③ 6 ④ 8 ⑤ 9 ⑥ 12

24 の選択肢

- ① -10 ② -9 ③ 7 ④ 8 ⑤ 9 ⑥ 10

25 の選択肢

- ① -3 ② -2 ③ -1 ④ 1 ⑤ 2 ⑥ 3

26 の選択肢

- ① 31 ② 33 ③ 35 ④ 37 ⑤ 39 ⑥ 41

27 の選択肢

- ① -3 ② -2 ③ -1 ④ 1 ⑤ 2 ⑥ 3

28 の選択肢

- ① -1 ② 0 ③ 1 ④ 2 ⑤ 3 ⑥ 4

29 の選択肢

- ① 5 ② 6 ③ 7 ④ 8 ⑤ 9 ⑥ 10

30 の選択肢

- ① -4 ② -12 ③ -40 ④ -44 ⑤ -50 ⑥ -60

IV $\triangle OAB$ の辺OAの midpointをP, 辺ABを1 : 2に内分する点をQとし, 線分PBと線分OQの交点をRとする。 $\overrightarrow{OA} = \vec{a}$, $\overrightarrow{OB} = \vec{b}$ として以下の各問いに答えよ。

問1 点Rは, 線分PB上にあるので, 定数 k を用いて $\overrightarrow{OR} = \overrightarrow{OP} + k\overrightarrow{PB}$ と表される。
従って \overrightarrow{OR} を \vec{a} , \vec{b} , k を用いて表すと, $\overrightarrow{OR} = \boxed{31}$ となる。

問2 また, 点Rは線分OQ上にあるので, 定数 l を用いて $\overrightarrow{OR} = l\overrightarrow{OQ}$ と表される。
従って, \overrightarrow{OR} を \vec{a} , \vec{b} , l を用いて表すと $\overrightarrow{OR} = \boxed{32}$ となる。

問3 \vec{a} と \vec{b} は平行でなく, かつ $\vec{a} \neq \vec{0}$, $\vec{b} \neq \vec{0}$ であるから, 以上より k , l の値は
 $k = \boxed{33}$, $l = \boxed{34}$ となり, $PR : RB = \boxed{35}$, $OR : RQ = \boxed{36}$
となる。

従って, $\triangle ORP$ と $\triangle BRQ$ の面積の比は, $\boxed{37}$ となる。

31 の選択肢

- ① $k\vec{a} + \frac{1}{2}k\vec{b}$ ② $k\vec{a} + \frac{1}{2}(1-k)\vec{b}$ ③ $(1-k)\vec{a} + \frac{1}{2}k\vec{b}$
④ $\frac{1}{2}k\vec{a} + k\vec{b}$ ⑤ $\frac{1}{2}k\vec{a} + (1-k)\vec{b}$ ⑥ $\frac{1}{2}(1-k)\vec{a} + k\vec{b}$

32 の選択肢

- ① $\frac{1}{3}l\vec{a} + \frac{2}{3}l\vec{b}$ ② $\frac{1}{3}l\vec{a} + \frac{2}{3}(1-l)\vec{b}$ ③ $\frac{1}{3}(1-l)\vec{a} + \frac{2}{3}l\vec{b}$
④ $\frac{2}{3}l\vec{a} + \frac{1}{3}l\vec{b}$ ⑤ $\frac{2}{3}l\vec{a} + \frac{1}{3}(1-l)\vec{b}$ ⑥ $\frac{2}{3}(1-l)\vec{a} + \frac{1}{3}l\vec{b}$

33 の選択肢

- ① $\frac{1}{5}$ ② $\frac{2}{5}$ ③ $\frac{3}{5}$ ④ $\frac{2}{7}$ ⑤ $\frac{4}{7}$ ⑥ $\frac{6}{7}$

34 の選択肢

- ① $\frac{1}{5}$ ② $\frac{2}{5}$ ③ $\frac{3}{5}$ ④ $\frac{2}{7}$ ⑤ $\frac{4}{7}$ ⑥ $\frac{6}{7}$

35 の選択肢

- ① 1 : 4 ② 2 : 3 ③ 3 : 2 ④ 2 : 5 ⑤ 4 : 3 ⑥ 6 : 1

36 の選択肢

- ① 1 : 4 ② 2 : 3 ③ 3 : 2 ④ 2 : 5 ⑤ 4 : 3 ⑥ 6 : 1

37 の選択肢

- ① 2 : 5 ② 3 : 8 ③ 4 : 9 ④ 5 : 12 ⑤ 6 : 17 ⑥ 7 : 20

計 算 用 紙

計 算 用 紙

